

宝塚市協働のまちづくり促進委員会	
協働の仕組みづくり検討部会(第6回) 会議録	
開催日時	平成27年5月22日(金) 18:30~21:00
開催場所	宝塚市市役所3-3会議室
次第	1 開会 2 議事 まちづくり協議会について 3 閉会
出席委員	久委員長、足立委員、飯室委員、塩谷委員、亀山委員、河上委員、熊澤委員、久米委員、古泉委員、古村委員、中山委員、平山委員、溝口委員、横谷委員、渡邊委員
開催形態	公開(傍聴人6)

1 開会

第6回協働の仕組みづくり検討部会(拡大部会)の開会。

事務局から、本日の委員出席者数は15人、欠席者4人であり、過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴人が6人であることを報告した。

2 議事 榎本地域活動協議会の活動について

榎本地域活動協議会の役員から、資料に基づき同団体の活動について説明がなされ、その後、以下のとおり質疑応答、意見交換等が行われた。

(1) 【部会長】榎本地域から、会長、事務局長、広報担当にお越しいただきました。広報がスピーディーで、今日の会議も早速フェイスブックに掲載されています。行事の広報はどこでもなさっていますが、榎本地域では、準備段階からフェイスブックで情報を流しておられ、1つの行事にこれだけの準備が必要なのだと地域の方々も分かり始めています。きめ細かな広報が重要なのだと思う。

(2) 【委員】町会、いわゆる自治会が協議会に変わったのか。

(3) 【榎本】資料『ふれあいえのもと通信』の12号に組織図を掲載していますが、振興町会、社会福祉協議会は残っている。NPOになっても町会費をいただいているので、この図で示すとおり町会長会議が一番大事だ。しかし、ほとんどの決定は理事会で行われ、そして運営委員会に流し、町会長にも流している。

大阪市内でも組織移行が難しい地域が多い。地域活動協議会がなくても、今まで振興町会と社会福祉協議会が活動してきているので問題がないといわれるが、これまでは縦割りで活動していた。地域活動協議会では、各種団体、事業所なども運営委員会に組み込んで活動している。社協会議は、運営委員会とメンバーが同じなので、統合して名前を変えた。

(4) 【部会長】補足説明すると、振興町会は宝塚市でいうと地区の自治会連合会に当たる。大阪市では、振興町会と地区社協が地域を束ねている2大組織であるが、地域活動協議会への移行に苦勞している地域もある。地区社協は本来のネットワーク組織で

あるので、地区社協が発展的に地域活動協議会になれば、スムーズに移行が進む。榎本地域は、2つの組織のトップが同一人物だったので、特にスムーズだった。しかし2大巨頭がいるところは難しく、どちらの組織が上か下かという問題が起こっている。

- (5) 【委員】17,000人、7,500世帯の組織を3つの部会に分けているが、1つの部会でどのくらいの範囲、世帯数になるのか。
- (6) 【榎本】部会は地域割りではなく、組織の中で部会に分けている。第一部会は福祉、教育関係で、第二部会は体育関係で、第三部会は安全、安心関係であり、町会長会と広報は全てに関わっている。目的によって部会が構成されており、ここでは主に行事の割振りをしている。かなり機械的に分けているので、現在は第四部会の設置を検討している。

7,500世帯で構成する単一組織であるが、町会長はモチベーションも高く、集金力もあるので、町会町会議は地域活動協議会の中の1つの組織であるが、抜き添った存在となっている。実際には、町会長会議、理事会、運営委員会のサイクルの中で物事が進んでいく。行政の情報も、地域の情報も一番つかんでいるのは町会長会議で、そこから理事会が始まり、運営委員会に移っていく。組織としては理事会がトップだが、順番に回していくサイクルの中で物事を進めている。

町会長は22人、運営委員会は78人、社協17団体から各2人程度、それ以外のグループ、各事業所から出ていただき、社協会議が発展して運営委員会になった。議決は、年1回の総会で78人の出席若しくは委任状で行っている。毎月過半数である50人程度が出席して運営委員会を開催しており、意思の共有もできているし、運営委員会の提案を理事会でも共有しているので、地域全体でも意思の共有ができています。

- (7) 【委員】会議の主導権は町会長会に持っていかがるを得ないと聞いたが、問題が発生した場合に各団体で討議したものを理事会に上げるのか 理事会から下ろすのか。

また、会長などは月に何回ぐらい会議に出席することになるのか。

- (8) 【榎本】どこから始まって、どこで全体化するかは課題による。部会や各種委員会で終わることもある。理事会から部会に下ろしたものは、理事会、運営委員会に報告が返ってくるので、そこで全体化が図られる。部会中心で進めているが、一極集中させたものを運営委員会や理事会で横串を刺して、さらに部会に分解していく流れなので、実際は、大きな行事では運営委員会や理事会が部会を引っ張っている。

- (9) 【委員】NPOだからこの組織体制ができたのか、NPOでなくともこの組織体制が適当だったのか。

- (10) 【榎本】NPOの立上げは付録みたいなもので、地域活動協議会の立上げを大阪市が求めてきたが、補助金のチェックが非常に厳しく、事業ごとに5割の補助となるので、個別事業ごとに領収書を振り分けて管理する必要があった。NPOの会計以上のことを大阪市が求めてきているので、それならばNPOとして会計士についてもらって、会計をガラス張りにするようにして、社会的な認知を受けるようなかたちをとった。その結果、活動の活性化につながった。

- (11) 【委員】補助金の枠はあるのか。また、枠は事業ごとにあるのか。

- (12) 【榎本】昔は、町会長会議に盆踊りのための補助金が下りてきていた。榎本地域で250万円ほどだが、補助金は事業ごとの縦割りだったので、地域に総額いくらの補助金が下りてきていたのかは分からなかった。地域活動協議会になってからは、一括交付金方式になって、榎本が積み上げた内容に対して大阪市の設定で補助金がつくようになった。毎年補助金の額は増えているが、補助金は5割しか出ないので、残りの半分を負担する地域活動協議会の予算規模も増えていっている。
- (13) 【委員】事業ごとの補助金がついているのか。
- (14) 【榎本】パッケージで提案して、事業ごとに査定されている。今年は20万円ほど削られた。
- (15) 【委員】町会がいわゆる自治会に当たるものだと思うが、会長の任期は何年か。
- (16) 【榎本】2年間である。
- (17) 【委員】何期ぐらい会長を続けているのか。
- (18) 【榎本】私は13年以上続けている。
- (19) 【委員】1期2年で毎回会長が変わるようでは、地域の実情を把握することはできない。
- (20) 【榎本】1期でやめる人は少なく、3期ぐらいは務められる人が多かったが、マンションはくじ引きで町会長を決められるので、最初は苦労した。地域活動協議会になってからは、マンションから選出される人の中にも素晴らしい人がいるので、町会長を退かれてからも、町会からの選出ではなく、地域活動協議会からの推薦で活動に参加してもらっている。
- (21) 【部会長】町会長だけでなく、いろいろな人が活動に参加できる組織になっているので、必ずしも町会長を中心に据えなくても活動ができる組織になっている。
- (22) 【委員】運営委員会の役員などがNPOの会員になっているのだと思うが、町会費をNPOに対する寄附として収入に充てている。活動が地域に認められているので、地域を巻き込んでこのような仕組みができたのだと思うが、その秘訣は何か。
- (23) 【榎本】青パトの活動やお片付け隊の活動を通じて、子ども、老人、その後ろにいる家族と顔の見えるつながりができるので、地域にも地域活動協議会の活動が認知されている。また、駅前の銀行の店長は、毎朝ポイ捨てのタバコを拾っているし、月に一度の放置自転車の片付けも店長をはじめ、行員が勤務中にもかかわらず手伝ってくれる。地域に密着した活動を地道に行っているなので、地域も地域活動協議会の活動を認め、協力してくれる。
- (24) 【榎本】青パトでも、お片付け隊でも、放置自転車の撤去でも、実績が評価されているので、新しい資源回収の事業でも、初回の回収から地域が協力してくれた。
- (25) 【部会長】広報紙で事業が8つほど掲載されているが、子供、ママさんなどいろいろなターゲットの事業が紹介されていて、活動の見える化ができています。このような広報により、より共感を生んでいるのだと思う。
- (26) 【委員】こちらからの依頼もあったのだと思うが、資料として広報紙の創刊号から揃えていただき、非常に感謝している。活動への熱い思いが伝わってくる紙面になっ

ており、参考にしたいと思う。

榎本地域は、町会の加入率が9割であるとのことだが、大阪市の他の地域も加入率が高いのか。また、榎本地域はもともと人のつながりが強い地域だったのか、活動を始めて10年で築き上げたつながりなのか。まちの特性があるのか。

宝塚市は、大阪のベッドタウンで、新興住宅地では特にさらさらした人付き合いを好む人が多い。

- (27) 【榎本】私自身は榎本地域に移り住んだ者だが、排他的な面はあった。一日住んで、この町が良いと思ったら地域の住民じゃないかという思いで活動をやってきたのは、その時の反発があったのかもしれない。

町会への加入については、マンションが建設された時には管理組合に出向いて、町会や地域活動協議会の活動を説明して、納得して加入してもらっている。難しいのはワンルームマンションで、若者が多いので加入率が低くなっているが、最近では高齢者の入居も多いので、地域での見守りを強化している。

- (28) 【榎本】榎本地域は、鶴見区内では比較的加入率が高いほうである。各町会長が加入促進に熱心で、PRのために活用するので、広報紙を作るように町会長から要望がある。

また、マンションに対しては協力的でないとの思い込みがあったが、避難所である小学校から一番遠いマンションが、防災訓練では一番熱心に活動してくれた。高層マンションは災害が起こったときに、陸の孤島の状態になる可能性があるので、管理組合で熱心に話し合わせ、地域とのつながりの重要性を認識されたようだ。マンション内での備蓄とともに、町会の防災活動とのつながりを真剣に考えてくれている。

マンションの会長は非常に優秀な方が多く、会長を辞められてからも継続して活動に関わってもらうための仕組みがこの地域活動協議会だと思っている。

榎本地域でも、町会長でなければ発言できないような頃もあったが、実績を重ねることによっていろいろな人が発言できるような環境になってきた。

- (29) 【委員】人材が地域活動協議会にプールされていっているように思える。

- (30) 【委員】NPOの組織は、どこまでが会員になっているのか。

- (31) 【榎本】規約では、細かい条件などを設けず、加入届けを出して事務局長が認めれば会員になれるようにしている。立ち上げの際は、とりあえず事業所や各部会の代表者と町会長には会員になってもらっている。会費はなし。

- (32) 【委員】決算を見ると、町会加入世帯から連合会費、社協費合わせて約470万円、7500世帯で割ると一軒600円となるが、これが活動の主な原資になるのか。

- (33) 【榎本】これは、大阪市の補助金に対する決算の数字で、NPOの予算規模としては、他に学童保育も受託しているので、実際には部会に、右から左に通過していただくの数字にはなるが、1700万円ほど金額がある。その他に地区社協として、大阪市の補助金の対象にならない独自事業もあり、地域活動協議会自体も1500万円ほどの予算規模になる。

平成27年度は、大阪市の補助金を530万円取りたいと思っているが、同額の財

源を地域で賄わなければならないので、それを一軒当たり720円の町会費としていただいている。

その他は、歴代の町会長が優秀で、大きなお祭りで儲けている。行事をすれば全て黒字になっているので、そういう仕組みの中でまわしている。

(34) 【委員】NPO法では、会員の加入は拒めないことになっているが、他の地域から協力したいので会員になりたいとの申し出があった場合、どうするのか。

(35) 【榎本】今後の検討課題であるが、実際には隣の今津地区で活動に参加させてほしいという方がいるので、一緒に行っている事業もある。

(36) 【委員】担い手不足について、宝塚市では担い手が固定化、高齢化している。若い人もどう参加していいのかわからない状態だと思う。入り口がない状態に陥っているが、榎本地域では慣例のないところでも入り口を作って、誰でも参加できる仕組みにしておられ、よいヒントになった。

町会でいろいろな課題があると思うが、それを集約して優先順位つけて、スピーディーに活動につなげることができる秘訣は何か。

また、会費を470万円も集めておられるが、どうしたら協力を得られるのか。

(37) 【榎本】地域活動協議会は連合体なので、町会によってそれぞれ課題への対応が違う。全体として討議しながらうまくまわしていくというのが、今回活動を紹介する際のポイントとしている。スピード感をいえば、木村さんのリーダーシップが大きい。会長が最初に構想を打ち立てて、実現する方法を事務方で企画しているが、実際に動いて活動の中で結果を出すので、非難を言う人はいなくなる。また、町会長も共通の問題を抱えているものなので、そこへ振っていけば同じようなスピード感でやっていけるのではないかと。

担い手の件については、関心が高いテーマがあれば人は集まる。防災訓練の当日は1000人が集まるが、当日までに4回の会議、ワークショップをする。一回の会議に100人が参加するが、人が足りないと言う。1000人で防災訓練するのに、足りないといえばそうかもしれないが、100人いれば他の人を巻き込む中心の動きにはなる。

また、小学校でやる防災訓練をそれだけのテーマで終わらせるのはもったいない。そこに、要援護者のことや通学路のことなど、いろいろなテーマを4回の会議に盛り込んでいく。その集大成として避難所の訓練を位置付けると何をすべきかが見えてくる。10人、20人の小さい会議でも、何をすれば良いかが見えてきたら、人が足りないと言わなくなる。

(38) 【部会長】音楽サロンの活動でも、会長が後押ししてくれるので、熱意のある人だけででもまず動く。動いて結果がでてくれば、周りの人が巻き込まれていく。そういう動き方を榎本地域ではされている。

(39) 【委員】テーマがニーズに合致しているので、受け入れられているのだと思う。テーマを探してくる人たちの感覚の良さが際立っている。

(40) 【榎本】学校の周りで子どもたちに危ないこと、ひったくりなどがあった場合に、

他の地域では学校に何とかしろと言いに行くが、会長はまず自分で地域の見回りをして、学校はどう応えてくれるのかという迫り方をする。このように迫られれば、学校は逃げることはできない。そうすれば地域全体の動き方が見えてくる。

役所とのパートナーシップも同じで、地域でこのように活動するが、役所ではどのようなメニューを用意してくれるのかを問う。放置自転車のことでも、地域の活動を役所に伝えると、いくつかメニューを提示してくれたので、協力関係ができあがった。サイクルサポーター制度も榎本地域での活動がきっかけで制度ができて、広まっていた。

- (41) 【部会長】榎本地域では、先に地域で活動して、解決できない部分を役所に行きに行くので、お願いされる役所のほうは、本当に大変である。
- (42) 【榎本】朝夕に犬の散歩、その後に青パトで、一日に何度もまちを見回っていると、地域の実情がよく分かるので、何か問題があっても即断してすぐに活動に移すことができる。
- (43) 【委員】広報紙を何部発行して、どのように配布しているのか。
- (44) 【榎本】9000部発行して、町会を通じて配布している。町会に入っていないところには、NPOに配布してもらっている。
- (45) 【委員】宝塚市では自治会の組織率は67%で、自治会に入っていない人への周知が課題であり、広報の方法を考えていく必要があると感じている。
- (46) 【委員】祭りなどの活動において、町会への加入、未加入が問題となることがあるか。また、昔ながらの地域のしきたりなど、活動するうえで軋轢を生むことがあったと思うが、どのように乗り越えられたのか。
- (47) 【榎本】昔から町会への加入、未加入で区別したことはないし、NPO法人にしたことで更にその性格が強まったと思う。

昔ながらの地域に溶け込むためには、連合会の会長になるときに、お寺の住職で町会長会の中心人物に頭を下げて協力を取り付けた。この人物がいろいろと尽力してくれたので、今の自分があるのだと感謝している。あと、クレーマーが会計処理のことを鶴見警察に問題として持ち込んだので、困ったことがあったが、大阪府警とは青パトのことで関係ができていたので、大阪府警に問題を解決してもらったことがある。それがきっかけで、NPO法人を立ち上げて会計処理を透明化することにした。

- (48) 【委員】運営委員会の委員は、第1部会から第3部会までに分かれて活動しているのか、運営委員会が全体の議決機関のようなものになっているのか。
- (49) 【榎本】動きながら組織を整備していくのが榎本地域活動協議会のやり方である。部会中心の活動にしていきたいが、まだまだ十分に機能していない。運営委員会が総会の役割を果たしているのだが、情報を一元化して、共有できる仕組みにしている。本来であれば町会長しか知らないような市役所からの情報も、運営委員会なら誰でも知ることができるように情報をオープンにしている。毎月総会を開催しているような運営はおかしいのかもしれないが、組織が成熟する中で検討していけばよいと考えている。今後、活動の間口が広がっていくので、部会を中心に活動していく方向になると

思う。部会の強化を図っていく必要がある。

(50) 【委員】各部会に所属しているのはどのようなメンバーになるのか。

(51) 【榎本】重複している団体も多いが、各種団体を3つの部会に分けている。町会長も必ず部会に入ってもらっている。

(52) 【委員】あまり会則に縛られずに活動されているようだが、活動の実態こそが大切なのだと思う。

フェイスブックなども活用しながら広報されているようだが、広報紙ほどの程度読んでもらえていると感じているか。

また、広報紙にいろいろな記事を掲載されているが、関心を惹く記事など広報紙の見直しを検討しているので助言をいただきたい。

(53) 【榎本】どの程度読んでもらえているかは把握できていない。記事の掲載は、各団体のブログから記事を転載しているので、各団体が本当にアピールしたいことを掲載できていると思う。

(54) 【榎本】ホームページも当初は中央集権的に管理するスタイルのものだったが、今は各団体が20ほどブログを立ち上げ、それをとりまとめて情報を集積するような、榎本の活動に合うスタイルにしている。

あと、毎月駅前でビラを配って、各行事を宣伝している。地域活動協議会に移行する前から、役所には輪転機を買ってほしいと要望していたし、紙媒体は重要なものだと認識している。

(55) 【部会長】プロのボランティアにアドバイスをもらいながら活動をされている。区役所のまちづくりセンターがそれを橋渡しする役割を果たしているが、プロの方も地域活動には慣れていないので、距離感をとるのが難しいこともある。しかし、プロの方も榎本地域での活動を通して、地域活動のことに関心を持たれ、自分の住んでいる地域でも活動を始められるなど、相乗効果が生まれている。

(56) 【委員】地域通貨の仕組みを立ち上げられるようだが、内容を教えてほしい。

(57) 【榎本】『おたすけ愛』というものを区全体で有償ボランティアとしてやっていたが、榎本地域ではそれ以外にも枠を広げたいと考えており、事業を始める原資の問題もあったので、それであれば通貨を印刷してしまおうという発想で考えている。助け合いという考えで事業を回せば、必ずしも換金しなくてもボランティアの中で循環していけばとの思いもあるが、地域のスーパーマーケットや商店街とつなげる、買い物ができるような仕組みにはまだなっていない。

専門のコーディネーターを入れて、商業者との連携を模索しているが、チケットとしての使い方を先行して、条件が整えば地域通貨としての移行も行おうと考えている。

(58) 【委員】宝塚市でも協働を推進しなければならないと思うが、市も財源がなく、地域の機運も高まっておらず、停滞ムードが漂っている。防災や介護の分野でも地域主導が叫ばれているが、協働が進んでいない。

(59) 【部会長】榎本地域では、やっている人たちが楽しく活動しておられ、充実感を感じることができるので、次の活動につながっているのだと思う。それが結果としてま

ちを良くすることになっているのではないかと考えている。まちが突然に変わるということはないと思う。

- (60) 【榎本】個人的に大きなことは考えるが、発言はしない。それよりも青パトでひったくりをなくすとか、何とかしなければならぬことに取り組むのにそれほど大きな議論は必要ない。とりあえず活動を立ち上げてきただけで、世の中がどうだとか大きな議論を積み重ねてきていない。

あと、おもしろいことしか参加しないというのは、人の常で、防災訓練なども町会ごとに競い合うような向上心が芽生えている。訓練などをしていれば、区役所からいろいろと備蓄品などが貰えるが、家庭にある食料も備蓄品として位置付けることができるし、スーパーの在庫もまちの資産として活用できるといった議論が自然と出てくる。

何から活動を始めべきか尋ねられた時には、防災訓練をお勧めしている。みんなに共通の課題であるし、それに関連付けて要援護者のことを議論することになっている。防災訓練と一緒に議論することで、現実的な、差し迫った危機として、近隣に住んでいる独居の高齢者をどう助けていくのか、まちとして議論を深めることができる。抽象論になるとすれ違うことがあるが、具体的な話になるとみんなでつながることができる。

- (61) 【部会長】防災訓練でも町会ごとに受付することにされている。自分がどの町会に属しているのかを認識していない人も、必然的に認識することとなるので、ほんの些細な仕掛けかもしれないが、町会への認識が深まることとなる。

- (62) 【委員】宝塚市には20のまちづくり協議会があるが、温度差もあり、活動も様々だが、この委員会はまちづくり協議会の関係者以外にも、様々な団体から委員が選任されているので、まちづくり協議会に限らず、活動全般に共通するようなキーポイントとして、おもしろさや楽しさを探していくのもよいかもしれない。

- (63) 【部会長】年に何回か鶴見区の地域活動協議会の関係者が集まって情報交換している会議があるが、そこでお互いに刺激されて、活動の参考にしておられる。

- (64) 【委員】SNSによる広報であれば、意見が返ってくることもあるかと思うが、SNSを利用した広報の有効性についてどう考えているか。

- (65) 【榎本】地域からはあまり反応が返ってこない。他の地域や行政関係者がよく見ているようだ。本当は地域の人にもっと情報を伝えていきたい。

- (66) 【榎本】榎本地域の評判を他の地域の人から聞くことによって、地域における評価が上がるがあった。

また、他の地域と情報交換することによって、榎本地域の活動で不十分なところが見えてきたり、榎本地域活動協議会のスタイルと大阪市が推奨する地域活動協議会のスタイルとの違いが認識できる。

活動しながら組織を整備していつているので、5年後、10年後の組織は、今とは違うものになっていると思う。

- (67) 【委員】きっちり活動しながら、自由に変えているのだと思う。

- (68) 【部会長】本日話題にあがった見える化、透明化が進めば、組織をしっかりしなくても間違った方向には進まないのだと思う。それを規約に求めれば堅い組織、活動になってしまうが、みんなが情報を共有すれば、誰も悪いことができなくなるのだと思う。
- (69) 【委員】大阪市が作成した地域活動協議会の活動に関するマニュアルどおりに活動している団体は、活発に活動が行われているのか。大阪市のマニュアルが機能しているかどうかを知りたい。
- (70) 【榎本】鶴見区は全ての小学校区で地区社協の会長と町会連合会の会長が同一人物だったので、地域活動協議会に移行するのに障害が少なかった。実態は様々で、組織はあるが活動していないところもあるし、財産のある地域では大阪市の補助金に頼らずに独自の活動を続けているところもある。
- (71) 【部会長】大阪市には、理想的な地域活動協議会を目指すのはよいが、それを目指すための過程を明確にすることと、地域の実情に合わせられるような仕組みをどうするか検討するように求めた。そこで大阪市が取り組んでくれたのがまちづくりセンターの設置であった。区ごとにセンターが設置され、アドバイザーと支援員が地域と一緒にマニュアルに沿いながら地域活動協議会を組み立ていくという運営の仕組みがあったので、うまく進んだ。
- (72) 【榎本】地域は様々で榎本地域のように活動できないと思われるかもしれないが、榎本地域もここまでくるのに10年かかっている。今日の話の中で、一つでも自分が住む地域でできることがあると思われたなら、そこから活動を始めてほしい。
- (73) 【部会長】今日の話地域を持ち帰って、何か一つでも活動につなげていただきたいと思う。

3 閉会